

【10 防災調整池】

- 防災調整池とは、造成によって雨水が地中に浸透しにくくなり、一時的に下流河川への流出量が増加し、河川等の災害を誘発する恐れがあるため、下図のとおり雨水をいったん貯留し、開発後も開発前より大きくならない流量に調整し放流するための施設です。

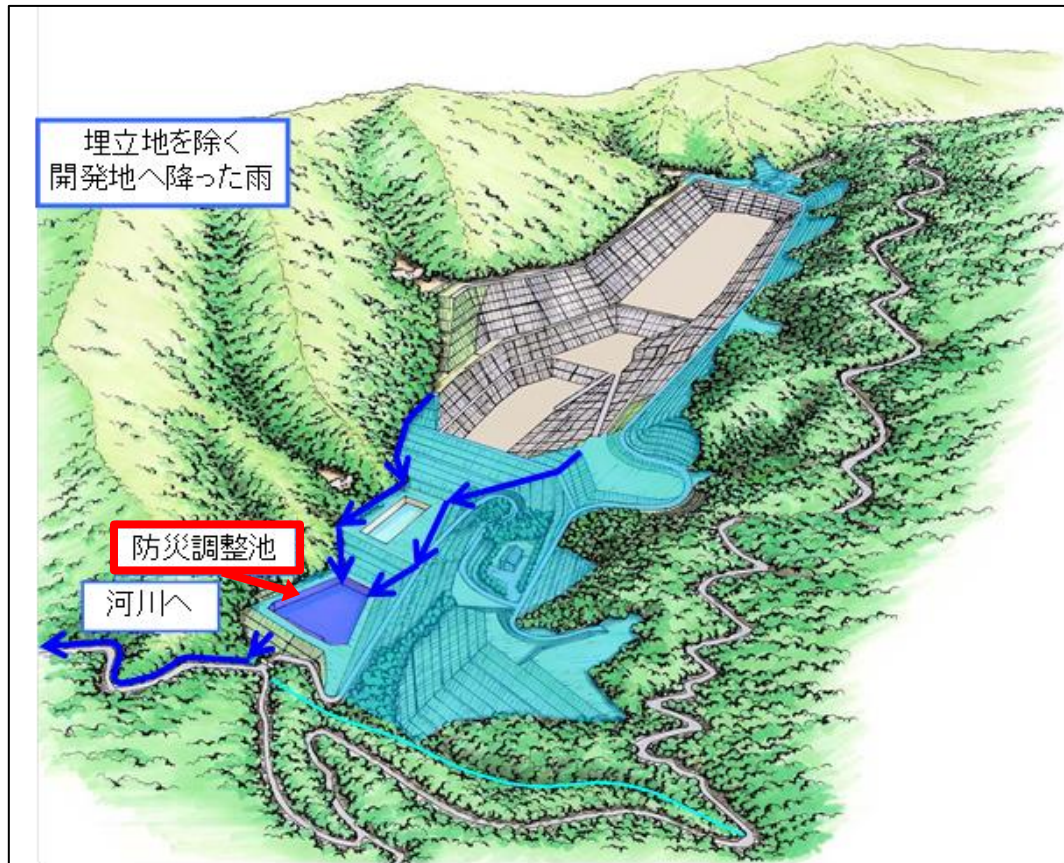


図 防災調整池イメージ

- この防災調整池容量の計算については、広島県の宅地開発基準に基づいて行っており、通常の開発行為においては、防災調整池より下流河川の改修計画から 30 年確率降雨強度式を用いて計算することとなります。
- 本埋立地においては、地形や構造的に許される範囲で防災調整池容量を大きくしており、その容量は約 $46,500\text{m}^3$ （堆積砂量約 $2,200\text{m}^3$ を含め全体容量約 $48,700\text{m}^3$ ）としています。
- その結果、100 年確率降雨強度式で求めた容量を上回る規模となっています。